

予 算 要 求 資 料

令和3年度当初予算 支出科目 款：教育費 項：教育総務費 目：教育指導費

事業名 高等学校における演劇等ワークショップ事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

教育委員会 学校支援課 総合支援第二係 電話番号：058-272-1111 (内 3548)

E-mail：cl7782@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 17,968 千円 (前年度予算額： 17,968 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財産 収入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	17,968	7,827	0	0	0	0	0	0	10,141
要求額	17,968	7,827	0	0	0	0	0	0	10,141
決定額									

2 要求内容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

高等学校においては、コミュニケーションを図ることが苦手なことで、学業や対人関係に行きづまりを感じる生徒や、日本語能力が十分でない外国人生徒が増加している。県教育委員会は関係機関との連携協力を図り、プロの演出家や俳優等を講師として招へいし、学校生活での行きづまりを感じている生徒や日本語能力が十分でない外国人生徒等を多く抱える県立高等学校において、演劇表現等のワークショップを実施することにより、生徒のコミュニケーション能力や自己表現力の向上を図ることを目的とする。

(2) 事業内容

- ・プロの演出家や俳優等を講師として招いて行う演劇表現等のワークショップを通じて、生徒に対しディスカッション、創作、表現等の活動を行い、思考力・判断力・表現力や社会性等の人間関係形成能力の育成を図る。
- ・相手役とのコミュニケーション等を通して、仲間とのつながりや自らの居場所を発見し、安心して学校生活を送ることができる教育環境の実現を図る。
- ・高等学校における演劇等ワークショップ指定予定校 13校

(3) 県負担・補助率の考え方

令和3年度先進的文化芸術創造活用拠点形成事業（国補助事業）を活用。

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
報償費	13,260	講師謝金
旅費	4,680	講師旅費
会議費	28	会議費
合計	17,968	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

- ・第3次岐阜県教育ビジョン

基本方針3 未来を切り拓くための基礎となる力をはぐくむ教育の推進

目標13 豊かな人間性を育む教育の推進

(2) 国・他県の状況

- ・文化庁補助「先進的文化芸術創造活用拠点形成事業」採択（事業名【文化芸術活動を通じた共生社会づくり】）

事業評価調査書（県単独補助金除く）

<input type="checkbox"/> 新規要求事業
<input checked="" type="checkbox"/> 継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか
 コミュニケーション能力や自己表現力の向上を図る演劇ワークショップを実施することにより、学業や対人関係に行きづまりを感じる生徒や、日本語能力が十分でない外国人生徒、第一希望で入学していない生徒等に対して支援を行い、人間関係形成能力を育成し、学校への適応力を高める。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前	指標の推移	現在値 <small>（前々年度末時点）</small>	目 標	達成率
	(H)	(H)	(H)	(H)	%
	(H)	(H)	(H)	(H)	%

○指標を設定することができない場合の理由

人間関係形成能力を図り、学校への適応力を高める事業であり、指標の設定はなじまない。

（前年度の取組）

・事業の活動内容（会議の開催、研修の参加人数等）
 山県高等学校（1年生 79名）羽島高等学校（1年生 150名）
 揖斐高等学校（1年生 119名）不破高等学校（1年生 90名）
 東濃高等学校（1年生 126名）恵那南高等学校（1年生 52名）
 土岐紅陵高等学校（1年生 95名）坂下高等学校（1年生 45名）
 関有知高等学校（1年生 137名）郡上北高等学校（1年生 103名）
 飛騨高山高等学校（山田キャンパス1年生 85名）（定時制1年生 27名）
 飛騨神岡高等学校（1年生 55名）
 華陽フロンティア高等学校（定時制）（1年生 175名）
 13校各校が全1年生を対象にワークショップを実施した。

（前年度の成果）

・前年度の取組により得られた事業の成果、今後見込まれる成果
 県立高校13校においてワークショップを開催することで、コミュニケーション能力や自己表現力の向上を図ることができた。

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<p>・事業の必要性（社会経済情勢等に沿った事業か、県の関与は妥当か） ○：必要性が高い、△：必要性が低い</p>	
<p>(評価) ○</p>	<p>「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」で演劇ワークショップ実施校（平成30年度実施6校）の平成28年度と平成30年度の平均値を比較すると、30日以上の不登校者割合は4.9が4.5へ、なかには3ポイント以上下がった学校もあり、一定の成果はみられる。また、令和元年度実施12校の受講生徒に対するアンケートでは、約9割の生徒が「多様なコミュニケーションスキルの習得」や「(コミュニケーションが取れるようになったことによる)他者からの受容感」に高い満足度を示している。今後も継続的に実施する必要性が高い。</p>
<p>・事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） ○：概ね期待どおり又はそれ以上の効果を得られている、△：まだ期待どおりの成果が得られていない</p>	
<p>(評価) ○</p>	<p>対象校13校の1年生に対して、計画どおりワークショップを実施し、コミュニケーション能力や自己表現力向上を図ることができた。</p>
<p>・事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） ○：効率化は図られている、△：向上の余地がある</p>	
<p>(評価) ○</p>	<p>対象校を精査し、現状での必要性が高い高校に対しワークショップを実施している。</p>

(今後の課題)

<p>・事業が直面する課題や改善が必要な事項</p> <p>学業や対人関係に行き詰まりを感じる生徒や、日本語能力が十分でない外国人生徒については、当該13校のみならず県内の多くの高等学校が抱える課題である。</p>

(次年度の方向性)

<p>・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか</p> <p>令和2年度に実施した県立高校13校で継続実施する。</p>
--

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

<p>組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課</p>	【○○課】
<p>組み合わせて実施する理由や期待する効果 など</p>	